

灼熱の地を開く

アフリカ支援の山陰人

3

取りや交通量調査を実施した。同時に五十人の調査員を動員して、市内の一万世帯を訪問。自家用車の有無や所得、移動手段、一日の行動パターンを尋ねさせた。

出身の有田積之さん(38)だ。四月の赴任時に驚かされたのが交通マナーのなさ。歩道への車の乗り入れや信号無視は日常茶飯事。交差点では渋滞で三人が同じ方向の車をダブ



ダルクエスラーム総合都市交通体系策定調査。将来の人口や交通量増加に対応できる都市交通網を整備するため、JICA

クリック
Aが市と取り組む調査。交通状況を調査し、道路整備や公共交通の設置を提案。基本計画に盛り込む。今年4月から1年間、2億5千万円の費用をかけて実施している。

交通体系の策定調査

快適と安全の実現に腐心

十分待たされる。東京のルカウント。「トラフルコンサルタント会社で外は尽きなかった」と振り返る。

調査結果から得たのは手上げの感だった。公共交通の必要性。市内は、いずれも車やバスで渋滞がひどく、都市機能の分散の必要性も浮き彫りになった。

有田さんのチームが強



ダルクエスラーム市の交通渋滞。進まない車の列にドライバーの表情にいらだちが漂う

調したのは、市が進める。Aが市と取り組む調査。交通状況を調査し、道路整備や公共交通の設置を提案。基本計画に盛り込む。今年4月から1年間、2億5千万円の費用をかけて実施している。

山陰ワイド

Sanin Sougou

総合

タンザニアの最大都市・ダルエスサラーム市の朝は、大音量の車のクラクションとともに始まる。通勤ラッシュ時間帯の幹線道路は車列が数百メートルに及び、一向に進まない渋滞にバスの中から顔を出す乗客の表情にはいらだちが漂う。

アフリカは広大な砂漠と密林という先入観とは別の顔を持つ。海岸部を中心にした急速な都市化。人口増に追い付かない交通体系を策定するため、JICA(国際協力機構)から委託を受け現地調査するのが、松江市

矢

(本社報道部・佐野卓